

物部川清流保全推進協議会部会「ゴミ対策を進めるWG」要旨(第2回)

日 時：平成22年11月29日 10:00～12:00

場 所：のいちふれあいセンター 香南市野市町西野 534-1

内 容

1. 事務局より、前回（1回目）の議事録要旨の説明
2. 今回（2回目）の協議事項である「一斉清掃活動への参加者をどう広げていくか」「広報をどう充実させていくか」について、各出席団体より発表を行った。

〈ごみのない物部川をつくる連絡会〉

- ・清掃の参加者の顔ぶれはいつも同じで、市民の参加が少ない。三市の自治会へ連絡できれば参加者の広がりが期待できるし、親子で川の話をするなどのゴミ拾いなど親子の参加も期待できる。
- ・以前、香美市社会福祉協議会から清掃に参加したいとの連絡があったので、社会福祉協議会との連携も検討してみてもどうか。（この時は広報誌を見て参加したいとの連絡があったもの）
- ・銀行へ広報誌を置いたときは銀行員の参加もあった。

〈JA とさかみ〉

- ・清掃に子どもが親を引っ張って連れて行くことも大事。その為には子どもが川で楽しんでできるようなことから始めていくことが必要。
- ・JA ならば広報誌の受入はその都度受付可能だが、広く広報するためには早めに日程等は決定しておく必要がある。
- ・10月30日の清掃（台風で中止）には JA からは多くの職員が参加することとなっていた。清掃への参加は、トップダウンで話をしていけば職員も行きやすいし組織としても動きやすい。（組織なら上が動けば下も動く）

〈香南市〉

- ・12月5日は香南市全域の一斉清掃（毎年6月、12月の第一日曜日に実施）。来週12月11日の清掃と日程がバッティングしているので、情報共有が必要。
- ・地元のサッカー大会（子どもの大会）の前に一斉清掃を実施した事例もあるが、スポーツイベントなら親も来るので、清掃に親子で参加もしやすい。
- ・香南市の広報誌（月1回発行）には環境関連のページは1ページ。1ヶ月前に情報もらえば掲載可能。
- ・赤岡の香宗川には目に余るゴミがある。香宗川での一斉清掃をして地引網など、イベントに組み込んだ清掃活動なら参加者が多くなるのではないかと。

〈南国市〉

- ・子どもが行きたくなる活動や、川に目を向けてもらう、親しみを感じる取り組みからまず始めてみては。ゴミが無くなるだけでは面白くないので、花を植えたりする行事とあわせてやってみてはどうか。
- ・南国市の環境に関する広報スペースは1ページは難しい。チラシは配る人が重たくなるので現在は入れていない。チラシは店に置くなどの方法になってくる。
- ・国分川をきれいにする会のウォーキングに参加したが、会費1,000円、片道40分、10時出発、100人程度参加し、園児含めて子どもも参加していた。昼時には芋煮、ツガニ汁を河原で食べて楽しく過ごしたイベントであった。ゴミのことは抜きにして、川へ来てもらい、川を知ってもらうためのイベントとしては、ウォーキングなどはいいと思う。
- ・ゴミをメインに考えた場合でも、ウォーキングのほか、物部川の生態を調べるようなイベントなど、子どもが気軽に参加できるものを組み込んでみたらどうか。
- ・マイ箸持参のイベントへの参加はハードルが高い。環境保全の意識の高いイベントも大事だが、たくさんの人に参加してもらいたいのであればハードルが低い方がいいと思う。

〈ごみのない物部川をつくる連絡会〉

- ・ 3市の職員の方は異動で職場が変わった後も、できればいろんな行事に参加してほしい。

〈香美市〉

- ・ 香美市広報への環境関連の記事は掲載はできるが、チラシの差込は困難。記事の掲載は市の広報委員会での審査が必要。
- ・ 自治会への周知については、年1回、4月に自治会長会があるので、その会で市の各課長が説明する機械があるので、清掃の周知の可能。
- ・ 香美市内では、毎年6月に山田、7月に香北と物部地区で一斉清掃がある。
- ・ 濁水対策として、シカ対策（ネット張り）、H16～H17の災害対策として林道改修に力を入れている。
- ・ 物部川本流はダムが3つあり川へ降りられないので清掃は実施していないが、支流では自治会が草刈り、ゴミ拾いを実施している。
- ・ 水と親しむ行事では舟入川でいかだ下りを実施している。
- ・ 各種団体（婦人会、子ども会など）が繋がってネットワークができればいいのではないか。

〈国交省〉

- ・ 一斉清掃はどの区域でも顔ぶれは同じ。国が音頭を取って機運を高めていきたい。（国が消極的になれば先細りになる不安がある）。あわせて住民からの盛り上げも大事。
- ・ 同じ人、同じ活動団体が何度も清掃に参加すると息切れしまうので、3つを1つにまとめるなど、同じ時期に清掃をまとめることが必要ではないか。
- ・ 下流で清掃しても上流からゴミが流れてくるので、上流へも清掃活動を広めないといけない。
- ・ 学校で川に近づかないようにとの指導をしている。
- ・ 定期の行事（イベント化）・住民運動の両輪で進めていきたい。
- ・ 7月第1週の物部川一斉清掃は広報依頼、パンフレットを配っているが、「一斉清掃」の名称が堅苦しいのもっと楽しい言葉がないか。
- ・ 不法投棄が多い場所には小学生に立て看板に絵を書いてもらったら効果がありそうだ。

〈環境共生課〉

- ・ 仁淀川の事例では、午前中に1時間清掃を行い、その後小学生を対象に水生生物調査を実施しているイベントもある。
- ・ 子どもが来れば親もついてくる。水生生物調査は親がやっても面白い。親が面白いと感じたら子どもへ伝えていくことにつながりやすい。
- ・ 釣り体験やカヌー体験を清掃と組み合わせても面白い。
- ・ 子どもが参加するには、清掃の開始時間が早いと参加しづらい。
- ・ 他の河川の事例では、四万十川では4月10日（四万十の日）にちなんで一斉清掃を実施している。仁淀川でも一斉清掃の日の制定に向けて検討している。仁淀川では、流域の情報共有の体制作りとして、イベントを一覧表にまとめて誰でも分かるような取り組みも始めている。

まとめ

◆一斉清掃の取り組み（上流から下流）

- ・ どの団体がいつの時期に実施しているかデータがない。清掃行事など実施時期がバッティングしている
 - 3市において年間の清掃行事や物部川のイベントの洗い出しを行い、情報の一元化を図る。（行事名、内容、時期、主催、場所）
- ・ 3市以外の団体においても、流域のイベントをホームページなどで掲載していく。
- ・ 清掃だけでは参加者が同じになるので、清掃以外に楽しいイベント（ウォーキングや生物調査など）を組み込む。
 - 多くの子どもに参加してもらうためには、開始時間が早すぎると参加しづらいので、10時開始が望ましい。